

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079700201		
法人名	医療法人 上野病院		
事業所名	グループホームあがの 南棟		
所在地	福岡県田川郡福智町上野2678番地1		
自己評価作成日	令和6年4月30日	評価結果確定日	令和6年5月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和6年5月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

薬王寺ののどかな自然の中にある環境が魅力で、入居者様やご家族様からも「良い所ですね」との声を聞くことが多いです。母体が病院だという事も強みになります。病院との距離も近く、何かあればすぐに診てもらえる事でご家族様も安心してされていると思われます。上野病院のデイケアとの連携もでき、数名の方が楽しく参加されています。職員の定着してきており、情報の共有の質が高まり、信頼感の向上にもつながっているものと信じております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／
事業所名

南棟／グループホームあがの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	繋がられていると思う。 理念を理解し、実践につなげるよう心掛けている。家族としての思いを持ち接している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にまではいけていないが、令和6年に入ってから新型コロナウイルスの感染症の制限も緩やかなものとなり、近隣の上野小学校児童の訪問や「カラオケハウスとんちんかん」の小松氏によるお誕生日会の演目の披露などをしていただいたので、これから増えていくものと思っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族等から相談があれば話をしているが、特別な機会は設けていない。コロナ渦でできなかったけれど、これから出来るようにしていけないといけないと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和6年1月より4年ぶりに実際の会議を再開して、法令基準などの変わり目である事も併せて活発な意見を戴けて、運営面でのご意見を反映させて行ける期待が持っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には町役場担当者や包括の職員の方に参加していただいているため、入居者の紹介の相談など、折をみて連絡は戴ける関係にはなっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制防止委員会を設け、規定に従い勉強会等を行い理解を深めている。玄関の施錠については、解放しておくのが難しいためやむを得ず行っている。なお、令和5年度より虐待防止委員会を併せて設立し、これと併せて継続的に研修・会議を行っている。令和5年度の主題はドラッグロックであった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	令和5年度より虐待防止委員会を設け、勉強会等を行い防止に努めている。言い方に自信が持てなかったりするのであれば、周囲に訊いてみたりするのもいいと思う。職員間の良好な関係が大事だと思う。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、理解に努めている。 具体的には、司法書士さんが公開しているYouTubeを観てこれを研修動画として学び、感想と意見を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定など、その都度説明を行い理解を得ている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けるなど、ご家族の要望に応えるよう努めている。でも意見箱って機能してるかな？ コロナ渦が続き、入居者様とご家族様との自室での面会などはまだ解除できないため、ここが課題である。我々は指示を待つだけなので上野病院がオッケーならすぐに解除した方が良いと思う。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話をする機会はある、反映している部分もある。 代表者である施設長に我々の意見を届ける機会自体が無いから考えた事もない。そんな事大きすぎて出来ない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の希望や状況に合わせての勤務体制や、人手が足りない時には皆で協力するなど、働きやすい環境づくりに努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しては、特に年齢や性別の制限はしていない。定年制度も設けていない。 南棟とか北棟とか垣根を取り払ってなるべく多くの職員が各棟を行き来出来る機会があれば色々な経験が出来て良いと思う。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング時などに話をするよう取り組んでおり、令和5年度より義務化された虐待防止委員会で学習するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	令和6年度よりリニューアルされた処遇改善加算の事もあり、意欲ある職員には積極的に参加できるように努める。南棟からは、1名令和6年度の実践者研修を受講予定である。また、令和5年度より義務化された介護職員基礎研修の受講を該当する職員4名に受講させた。4月より新管理者の体制となったけれど、正直まだまだ実力不足と思うからこれからに期待したい。一人一人の職員を見てね。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	以前はグループホーム協議会を開催し、交流する機会を設けていたが、コロナ禍が続いており、出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。本人や家族から聞き取りを行っている。その他、新入居者についてはつきっきりになるくらいのレベルで付き添うから安心して貰えるように務めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。本人や家族から聞き取りを行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階では難しいが、本人や家族に寄り添いながら、必要としている支援を考えるよう努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて協力を求めたり、届け物があった時に連絡を取るなど、家族との関係づくりに努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をかけたり、玄関先での面会など現状で出来る限りのことは行っている。コロナ禍も終わったので、施設長と相談のうえで自室での面会も解除となれば自室面談も再開する。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話の合いそうな人と近くの席にしたり、スタッフを交えて会話をするなど孤立しないよう支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居で契約が終了した場合でも、ご家族から相談や訪問がある時には出来る範囲で対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に合わせて、食事や入浴などを行っている		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取りを行い、スタッフ間で共有している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人と関わり合いながら見極め、気が付があればスタッフ間で共有している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、担当スタッフ等と相談しながら作成している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきなど見逃さないよう、スタッフ間で共有しながら取り組んでいる		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な方は上野病院のデイケアに通ったり、病状によっては訪問看護師のリハビリを受けている方も居られる。メンタルケアや、希望があれば買い物や散歩も一緒に行っている。レクや体操の運動も出来る範囲で行っている。臨機応変に対応をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	上述もしたが、令和6年に入ってからコロナ渦の影響が薄まったため、上野小学校児童の訪問を受けたり、「カラオケハウスとんちんかん」のお誕生日会での演目披露を戴いたりしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関への受診をおこなっている。本人同行の受診ができない時は、代理受診も行っている。母体である上野病院との連携があるため、こちら側からなるべくかかりつけ医を上野病院にして戴くよう呼びかけている。		
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師による健康管理を行っている。その際に報告や相談をして適切な指示をいただいている。また急変時には電話にて連絡を行い、訪問や指示にて対応している。夜間時など緊急時には電話連絡をして必要な指示を戴き、場合によってはすぐに駆け付けて戴いている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を取りながらお互いの情報交換を行い、入院中の様子や退院の時期などの話し合いを行い、関係を作っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から本人、家族にはお話ししている。時期を見極めて、その時期が来た時は、担当医や家族らと話し合いを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正直できてはいないと思う。。定期的ではないが、訪問看護の看護師などに教わる事もある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は今はまだ出来ていない。避難訓練は定期的に行っており、台風や停電時には非常食を準備したり、浴槽に水を溜めるなどの対策は行っている。令和6年よりBCP計画が義務化されたため、職員の訓練が最優先と考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いなどに気を付けて、出来る限り行っている。これは永遠の課題だと思う。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に選択していただくよう心掛けている。決して本人を否定しないように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など本人の要望に応えるなど、出来る限り希望に沿うようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を聞き入れている。意思表示が難しい入居者様も居られるが、なるべく心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味見、片付け、おしぼりたたみなどをして戴いている。食事形態もきざみ食やムース食、とろみを使用するなど個人に合わせて提供している。加えて、贈り物があつた場合などはこれをお食事に提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量はチェック表を作成し、管理を行っている。一人ひとりの状態を把握し支援している。食事が摂れない時は、栄養補助食品など状況に応じて対応している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、仕上げを行っている。また週に1回、訪問歯科による口腔内のケアをしていただいている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	朝の牛乳や水分を沢山摂取して戴くよう勧めている。その他歩くことを支援している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気を付けたり、力が入りやすいよう工夫するなど取り組んでいる。便が出にくい場合には、薬などで対応している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する順番など出来る限り希望を聞いている。入浴を拒否される場合は無理強いせず清拭を行うなどして対応している。でも今はボイラーが壊れたりもあって、正直対応は出来ていないと思う。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の時間など必要に応じて休息をいただいている。安眠できるよう居室の温度調節に気を付けながら支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概ね理解している。薬の変更があった場合などは、症状の変化を見逃さないよう注意して観察を行っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方には、歌番組を録画するなどして希望されるときに観ていただいたり、また食べる事が楽しみな方には、好みのお菓子など(飴、コーヒーなど)を提供するなど支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への外出は満足に出来ていないが、スタッフと一緒に庭園を散歩したりするなど出来る限りで行っている。昨年は11月に紅葉見学へ行った。そもそも利用者さん自身が遠くに行きたがらないのが現状である。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病気の症状によって、トラブルが発生する場合があるため、お金は事務所で管理している。欲しい物や必要な物があれば、預かっているお金で代理で買い物に行き購入するようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけたり、手紙を書くなど支援している。年賀状などを一緒に作成し、家族に郵送している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や玄関に季節に応じた飾りや写真などを掲示して、季節感を取り入れている。トイレは不快な臭いがしないように、誤飲などの危険が無いよう工夫して芳香剤などを使用している		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂は椅子、ソファを置いて、自由に過ごせるようにしている。テレビを観たり、会話を楽しんだり、居眠りされたりと毎日好きなように過ごしていただいている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自身のタンスや仏壇を持ち込まれたり、なじみの物を置いたりされる方も居られる。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や居室などに貼り紙や目印になるものを飾り、場所がわかるよう工夫している。モニタリングシートをしっかりと読み込むなど、担当している入居者様の事など、把握するように努めている。		